

クレアソウル

Council of Local Authorities for International Relations, Seoul

News Today



今進めている4つの事業を紹介します。

目次

韓国の人気漫画家ホ・ヨンマン先生による日本の観光地紹介	2
広がり行く韓国市場での日本産品拡大に向けた挑戦	8
国際事業展開のために、韓国の青年を受け入れませんか。	12
日韓地方行政フォーラム「多文化共生社会の実現を目指した取り組み」	13

AKITA

韓国の人気漫画家
ホ・ヨンマン先生による
日本の観光地紹介

SIZUOKA



ホ・ヨンマン先生

韓国の食をテーマとした漫画『食客』の作者。同作品を原作とした映画『食客』も公開され、観客動員数は300万人を突破。イ・ミョンバク大統領の夫人を名誉会長とする韓国料理世界化推進団の委員にペ・ヨンジュン氏等とともに、参加。



代表作「食客」(日本語版)



ソウルで取材を受けるホ・ヨンマン先生

*事業概要

ホ・ヨンマン先生は、韓国で一番有名な漫画家の一人です。現在までに150万部以上を売り上げた代表作「**食客**」は、韓国料理の真髄を、人情とペースで味付けした傑作です。この作品を原作にドラマや映画も制作され、この冬映画「食客2」の劇場公開も控えています。

ホ・ヨンマン先生は、**食の大家**であるのみならず、人柄も優れた方です。そして、日本のことをもっと韓国の人たちに伝えたいという意欲をお持ちです。

クリア・ソウル事務所では、このホ・ヨンマン先生を日本の自治体が招待し、観光地等を紹介するツアーをコーディネートしています。また、取材費用も、一部補助します。

今年4月には「秋田」、7月には「静岡」を訪問、本年度は今後、「青森」、「鹿児島」、「北部九州」の3カ所を訪問します。また、来年の訪問は、**6カ所**の予定です。

訪問取材の内容は、韓国の新聞三大紙の一つの**中央日報**やインターネットポータルサイト**DAUM**に掲載され、最終的に**単行本**化されます。また、旅行雑誌への掲載、TV放送も検討中です。さらに、韓進観光からは、先生のツアーを旅行商品として売り出します。

*参考URL

(秋田取材第1回掲載記事:

韓国インターネットポータルサイト**DAUM**)

<http://cartoon.media.daum.net/toon/special/japan/special/read?seriesId=154101&cartoonId=1942&type=s>

***これまでの取材について**

これまでに取材した「秋田」、「静岡」では、次のような、「**特色があって、韓国では知られていない観光資源や食**」を紹介できました。これらは、自治体のイメージ・アップにつながると思います。



4月18日~23日 主な取材地

「千秋公園・角館でのお花見」、「白神山地『青池』トレッキング」、「なまはげ」、「竿灯実演」、「比内地鶏ときりたんぼ鍋」、「稲庭うどん」、「乳頭温泉『鶴の湯』」等



取材を終えての自治体職員等のコメント

第1回 秋田県 観光課所属 CIR (国際交流員) リュ・ハンナさん

子供の時から憧れていたホ・ヨンマン先生にわが秋田をご覧いただけたことをとても嬉しく思っています。先生は、スタッフはもちろん、地元の人たちともすぐうち解けてくださり、どんな些細な説明も関心を持って聞いてくださったので、秋田を紹介しながら喜びとやりがいを感じました。秋田の魅力が先生の感覚と視線を通して発信できたことで、韓国からの誘客も大いに期待できると思います。良い機会を与えてくださったクレア・ソウル事務所に感謝です。

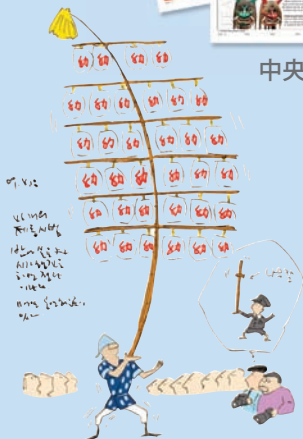
***掲載記事**



中央日報



インターネットDAUM



角館でのテレビ局取材



白神山地「青池」



なまはげ行事を模擬体験



竿灯(かんとう)を実感



郷土料理きりたんぼ



稲庭うどん

静岡おでん横丁で...



川勝平太静岡県知事と歓談

* 日本での報道



ホ・ヨンマン先生のコメント

「遠い親戚より近くの他人」ということわざがありますが、韓国では旅慣れている人ほど日本を選びます。この人達の旅は、ゆったりとした余裕を持ったものです。

今回の企画で訪問した秋田・静岡といういずれの訪問地も『自然』を肌で感じることができ、特に秋田の稲庭うどんでは食文化、伝統のある静岡の新井旅館ではいにしへの雰囲気を感じ取ることができました。

元来わたしは、コンクリートのような人工物よりも、**土や草木より醸し出される香りや雰囲気**が好きなのですが、訪問したい地域の地域でも、住民の方々がその地域の文化や自然、建造物や歴史に誇りと畏敬の念をもっており、大切に未来へ継承されていると感じました。

欲張りな話かもしれませんが、親近感を感じる日本の全ての地域を、ゆっくりと時間を掛けて隅々まで訪問したいと思っています。

韓国からの観光客は、**250万人時代**となりました。「自然の中の露天風呂」など癒しが得られる日本旅行の人気は高いものがあります。このような旅行は、韓国内では、なかなかできないからです。しかし、定型的な観光地以外の日本の魅力は、意外に知られていないのも事実です。

クリア・ソウル事務所では、これからも日本の隅々まで回り、多彩な魅力を、**楽しく、美味しく**、韓国で紹介・発信して行きます。みなさまの地域をPRしたいと希望される自治体は、是非手を挙げていただきたいと思います。

第2回 静岡県

7月9日~14日 主な取材地

「富士登山」、「大井川鉄道のSLと駅弁」、「茶摘み体験」、「田園の人情居酒屋」、「天城での採れたて生わさびの試食」、「三島のうなぎ」、「伊豆修善寺の文化財的な旅館『新井旅館』」等



取材を終えての自治体職員等のコメント

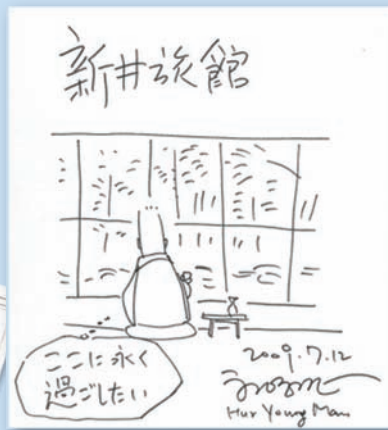
第2回 静岡県 観光振興室 水守 喜久さん

韓国内での知名度が抜群のホ・ヨンマン画伯による取材をもとに各種韓国メディアへ露出ができるこの事業を通じ、静岡県単独ではなかなかできない効果的なPRができたと思います。また、自治体派遣職員からなり自治体実務に理解のあるクリアに韓国側取材団との調整など現場レベルでの協力をいただき、スムーズな事業の計画や実施ができました。

*掲載記事



中央日報



インターネットDAUM



一昼夜をかけて富士登山



大井川鉄道SL



富士山麓で茶摘み



地域住民憩いの場である居酒屋を取材



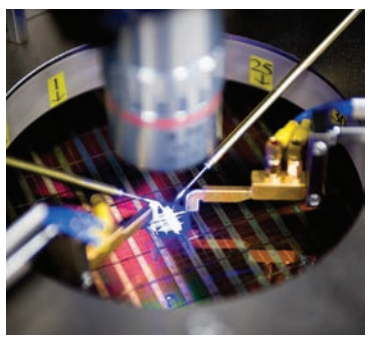
わさび農家で収穫体験



富士山伏流水を利用したうなぎ

NETWORK

インセンティブ・ツアー 受け入れのための ネットワークづくり



韓国では、インセンティブ・ツアー（報奨旅行）が盛んです。実績としては年間**1000件**に上るのではないのでしょうか。

インセンティブ・ツアーとは、保険会社、製薬会社といった企業や医学会、福祉事業団などの団体が、所属職員・会員などに提供する旅行です。その実施目的は、心身のリフレッシュもありますが、視察・研修の面も重視されています。

標準的な例としては、15～20人程度の団体で、4泊5日、視察先2カ所とその他は観光を行うものとなっています。視察先は、トヨタのカンバン方式、京都のMKタクシーの顧客第一主義など多種多様であり、今後は福祉施設なども増加するとのことです。費用は企業負担なので、一般的な格安パッケージプランとは異なり**1ランク上**のツアー内容となります。勿論、もっと大規模なものもあります。

インセンティブ・ツアーを提供している韓国の旅行社によれば、視察先の選定に難儀しているとのこと。企業や団体の意向に合わせなければなりません。韓国の旅行社には日本全国に「つて」と「情報」がないからです。

そして、このような視察先情報は、自治体で提供できるものです。その場合、インセンティブ・ツアーの誘致に繋がるというメリットがあります。

一方、日本の自治体から、祭り・イベントの内容や新たなインセンティブなどの情報を韓国の観光会社に知らせたい場合もあると思います。

クリア・ソウル事務所は、韓国の旅行会社との結びつきを持っています。今後、クリア・ソウル事務所を媒介とし、韓国の旅行会社と日本の自治体の間で、このような有益な情報を、双方向で交換できる**ネットワーク**づくりを進めます。（右図）

韓国からの誘客強化をお考えの自治体は、是非このネットワークに加入いただき、ご活用ください。



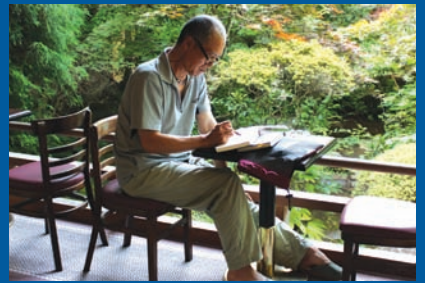
韓国旅行社のコメント

(株)リンカイソウル支店所長 キム・ジェジンさん

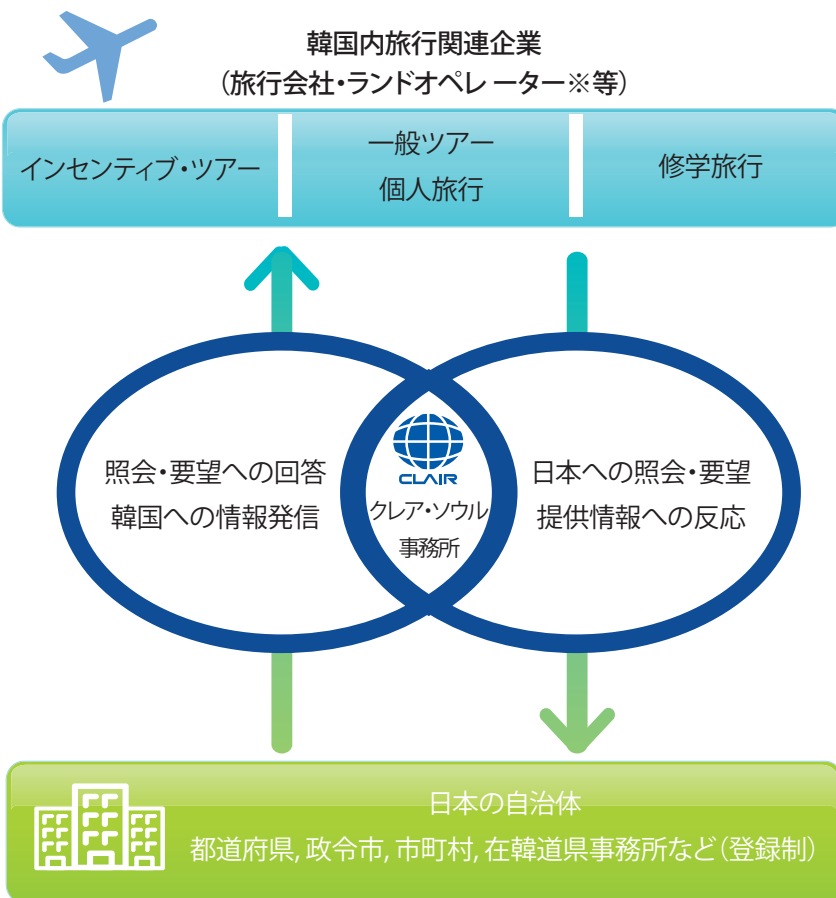
旅行の先進化のためにこれからは旅行のパターンが変わらなければならないと思います。過去の旅行パターンは単純に休息と見る観光が主でしたが、最近ではインセンティブ・ツアーが増えています。

これは時代の変化によって、旅行の文化も変化しているからだと思います。個人と企業が単純観光から旅行のパターンを変えて旅行の内容と質を重要視するようになってきています。だから旅行商品も、顧客の希望に合わせて内容と質を上げなければならないと思います。それによって顧客の満足度も変わるからです。

日本は特に私の経験から言うと企業研修の満足度が高い国だと思います。日本と韓国は類似の面も多いが、違う文化もたくさんあります。そのような点をお互いに参考にしながら、インセンティブ・ツアーを活性化できるように、日本の自治体と企業に積極的に協力してほしいと思います。



*ネットワークの概念図



※ランドオペレーターとは、訪問観光地の選定や予約手配を行い、旅行商品を旅行会社に提供することのみを行う会社(韓国独自)

SAKE

広がり行く韓国市場での
日本産品拡大に向けた
挑戦

特産物

韓国の方の舌に日本料理は良く合うようです。

日本の食品の**9割**は、韓国で受け入れられると言われます。

ソウルでは、日本風居酒屋や寿司屋をよく見かけるようになりました。韓国の家庭では、トンカツやカレー、うどんは定番です。デパート・スーパーでは、醤油、味噌、ソース、わさび、酢などの調味料、納豆、カレー・ルー、お菓子などの日本製品が並びます。レストラン用のホタテ・牡蠣、居酒屋用のおでん種など、業務用の需要もあります。

このような中、クリア・ソウル事務所では、日本各地の製品の韓国市場での販路開拓に向け、努力を始めました。

特に、人気が高まっている日本酒について、経済効果はもとより、日本の地域文化を韓国へ発信するアイテムとして注目しています。

* 韓国の酒市場へ日本酒は参入できるのか？

さて、日韓交流事業に参加された方々であれば、韓国の方とお酒を酌み交わす場面を多く経験されたと思います。WHO統計によると、韓国人一人当たりのアルコール消費量は、OECD加盟国中、**第1位**です。

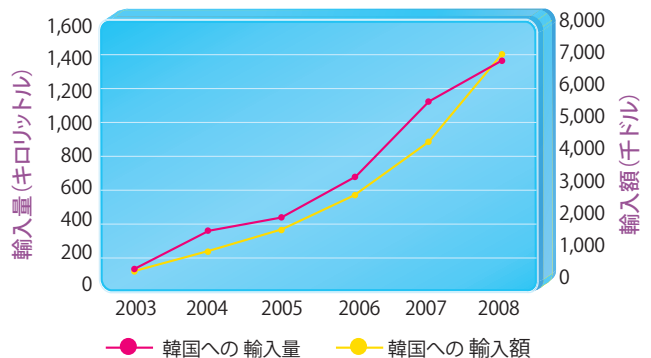
韓国の酒は、従来から韓国焼酎(ソジュ)が中心です。しかし、最近では、女性飲酒人口の増加、家庭での食中酒の消費増加を受け、アルコール度数の低い焼酎やビールの消費量が増えています。また、日本酒に先駆けて、**ワインは大きなブーム**を呼びました。

日本酒は、1994年に韓国への輸入が開放されました。輸入量は増加中です(下図)。日本酒を好まない韓国の方は、あまりいません。

また、輸出先としても、アメリカ、台湾に次いで、第3位です。



* 最近の韓国における日本酒輸入実績





新世界百貨店日本酒専門店のレイアウト

*日本酒はどのように流通しているか？

しかしながら、日本酒の内訳を見ると、いわゆるパック酒など安いお酒が主です。韓国内での日本酒の販売価格が、かなり高いからです。

日本酒を輸入する場合、関税のほか、酒税、教育税、付加価値税により、日本国内での販売価格の**約70%**の税金が課せられます。日本酒は主に居酒屋で飲まれています。その場合、居酒屋の儲けが加わるので、日本での販売価格の**5~6倍**にもなっています。

それでも、韓国の有名企業や外資系企業などが多く集まるソウル市江南地域では日本人が経営する本格的な居酒屋や高級寿司店が並び、比較的高価な地酒も消費されます。

また、20代の女性を中心に人気を博しているある日本系の居酒屋では、月ごとに地酒の銘柄を定めて、販売キャンペーンを実施しています。つまり、地酒の**固定客**は確実に存在しています。

居酒屋以外での販売形態としては、今年に入り、ソウル市内の新世界百貨店で日本酒の専門ショップがオープンしました。日本酒も、ワイン同様消費者への小売りが進めば、流通量の急増が期待できます。価格を下げることであれば、**日本酒ブーム**の到来は夢物語ではありません。



新世界百貨店に並ぶ日本の味噌



秋田の食材を使ったレストラン
「秋田ダイニング」



日本酒試飲会の様子



日本酒試飲会に参加した中井常務



試飲会翌日、新世界百貨店にて
担当者との意見交換

***日本酒の販売促進に向けた取り組み**

クリア・ソウル事務所では、昨年10月に、大使館と協力し、日本酒試飲会を行いました。クリア本部を通して各自治体をお願いしたところ、**50銘柄**以上の地酒がソウルに集まりました。

また、今年4月には2回目の試飲会を開催し、29社**41銘柄**の日本酒を出品したほか、鳥取、福岡の蔵元**3社**が来韓しました。

この試飲会では、酒類輸入業者、居酒屋、ホテル、百貨店など18社約50名が来場し、出品された地酒を丹念に味わうとともに、来韓した蔵元の説明に熱心に聞き入る姿も見られました。

試飲会の翌日には、日本の蔵元が韓国内の輸入業者と大手百貨店を訪問し、韓国の流通事情や今後の見通しについて積極的な意見交換が行われました。

この結果、日本の蔵元と韓国流通業者の間で、2件の**マッチング**が成立しました。



参加者の声

菊美人酒造株式会社 (福岡県)
代表取締役専務 江崎 俊介さん

福岡県は韓国との交流が盛んな地域であり、その韓国での日本酒の販売に関心をもっていました。しかし、なかなかその手がかりをつかめないでいましたが、今回、公的機関のクリアが行う試飲会ということで安心して参加することができました。また、個人的に面会を申し込んでも門前払いされるような百貨店の方などともじっくり流通事情について話を伺う事ができ、大変実りあるものとなりました。私どもは、これを契機に業者の方と商談が成立し、先日2回目の輸出を行ったところです。



* これからの展開

韓国では、飛躍的な経済成長に伴い、国民の生活水準が著しく向上し、健康で豊かな生活を求める「**ウェルビン**」(Well-Being) ブームが続いています。

そして、日本酒を含む日本の商品は、「良質で体によい」と認知されており、今後需要が伸びると思います。しかし、供給を見ると、最近、日本側からの新しい商品の紹介が、あまり活発ではありません。

このような中、クレア・ソウル事務所では、今年10月鳥取県が行う「鳥取県物産展」に対する支援を行います。新世界百貨店江南店において、日本酒・加工食品等の製造業者約10社程度が参加して、実施します。

クレア・ソウル事務所では、韓国内の消費・流通業者とのネットワークを活用し、来年度も、自治体が行う「物産展」を**2回**程度支援する考えです。ご希望の自治体は、お知らせいただきますようお願い致します。



日本酒の展示イメージ



物産展イメージ

札幌の物産と観光フェア(ソウル)



参加者の声

中井酒造株式会社(鳥取県)
常務 中井 秀雄さん

やる気とスピードが大事だと感じました。

韓国はまだアタックするつもりではありませんでしたが、クレア・ソウル事務所の企画でチャンスを得たので参加しました。沢山の方々が来られてとてもいいPRができ、すぐに代理店も決まりました。こんなことは海外進出を始めて、初めてのことでした。今年4月、クレア・ソウル主催の試飲会にも参加しましたし、代理店とデパートでの試飲会も行いました。

韓国でのチャンスを生かしたいと思います。



CIR

国際事業展開のために 韓国の青年を 受け入れませんか。

JETプログラムで韓国から海を渡った52人のCIR(国際交流員)の青年が、**46自治体**で頑張っています。46の内訳は、25道県、3政令市、18市町村です。韓国JETは1993年から始まり、16年が経ちました。

選抜は、クリア・ソウル事務所と大使館が責任を持ちます。**約40倍**の難関を突破した皆さんは、日本語能力が高く、優秀で人柄も良い方たちです。そして、何より、日韓の絆を深めることに熱意を持っています。これからも、高麗大学、韓国外国語大学出身者をはじめとした、優秀な人材確保に努めます。

自治体での仕事は、国際交流部署が多いのですが、観光部署で活躍するCIRも増加中です。現在、7自治体で観光部署に配属されています。観光部署では、ファムツアーや韓国からの取材団の受け入れ、韓国旅行会社との連絡・調整、韓国語の観光案内や広報物の作成などを行っています。

CIRは、日本語－韓国語でのコミュニケーション能力と、やはり韓国人を誘客するわけですので、**韓国人としての視点や感覚**を活かして活躍しています。韓国で日本観光のPR会社を運営しているOBがいるほどです。

また、クリア・ソウル事務所では、自治体が韓国のCIRを受け入れやすくするため、「**活用事例集**」を作成し自治体に提供する予定です。

韓国との関係強化のために、そして、韓国人観光客の誘致のために、あなたのまちでも韓国の青年を受け入れてみませんか。

CIRとは...

JETプログラムのうち、自治体で国際交流活動に従事する国際交流員の名称です。

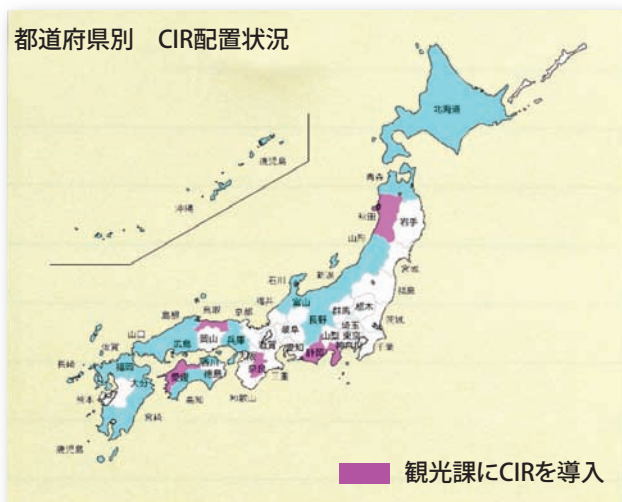
ラジオへの出演



観光取材対応



都道府県別 CIR配置状況



国際交流員との仕事を通じて

鳥取県文化観光局交流推進課韓国交流担当 森田 雅典さん

韓国語はもちろん、韓国事情をまだ十分に理解していない私にとって、国際交流員は頼もしい存在です。韓国側との連絡調整を行う際にも、文化・習慣の違いを考慮した翻訳と補足説明をしてくれるので、話もスムーズに進みます。また、経済、観光、文化、青少年などの様々な交流事業においても的確なアドバイスで交流の橋渡しを行うコーディネーターとして、国際交流員は日韓交流に欠かすことができない大切なパートナーです。

<参考ホームページ> CLAIR (<http://www.clair.or.jp/>)

2009

日韓地方行政フォーラム 「多文化共生社会の 実現を目指した取り組み」



1. フォーラムの概要

8月6日に、仁川広域市で開催しました。今回から、日韓の自治体が強い関心を持ち、日韓比較が有益な**政策テーマ**～今年は「多文化共生社会の実現を目指した取り組み」～を取り上げ、掘り下げて議論しました。

日韓両国は、民族的均質性が高い国家です。しかし、一方では、輸出大国でもあり、国際化の波は避けて通ることはできません。そのような中、韓国では、国際競争力強化の観点から、外国から**非熟練労働者**を受け入れる法制度を作りました。

また、激しい少子化を背景に、外国からの花嫁さんが顕著に増えています。「**農漁村に住む韓国人男性の4人に1人が外国の女性と結婚**」との事実は、国民に衝撃を与えました。「(外国人の受け入れで)韓国の地域社会はここ10年で大きく変わった」という声をよく耳にします。

韓国では、労働者受け入れ制度の法制化や国際結婚の増加に伴い、多文化共生政策も制度化されました。法律に基づき、国から地方まで一貫した措置が採られています。充実した国庫補助制度もあります。これは、ほとんどが自治体の努力に委ねられている日本の多文化共生政策の一步先を行くものです。



日韓両国と多文化共生

明治大学国際日本学部教授 山脇 啓造さん

日韓地方行政フォーラムが、「多文化共生社会の実現を目指した取り組み」をテーマに開催されたことは、時宜にかなったことといえます。多文化共生は日韓両国の自治体にとって共通の重要課題となってきたからです。

日本では、2006年3月に総務省の「地域における多文化共生推進プラン」が策定され、自治体の多くが多文化共生の指針や計画を策定するようになり、一方、韓国では、在韓外国人処遇基本法(2007年)や多文化家族支援法(2008年)が制定され、自治体の取り組みが急速に進んでいます。

日本は自治体主導のアプローチであるのに対して、韓国は国主導のアプローチで、お互いに学ぶところがたくさんあると思います。今回のフォーラムを契機に多文化共生の分野で日韓の自治体交流が盛んになることを願っています。



<韓国の国際結婚女性の国籍別状況(上位8ヶ国) 2008年韓国保健家族福祉部>

国籍	中国	ベトナム	フィリピン	日本	カンボジア	モンゴル	タイ	ウズベキスタン	その他	合計
人数	58,252	26,065	5,496	4,832	2,702	2,277	1,995	1,294	3,663	106,576

フォーラムの第一部では、仁川国際交流センターの崔京甫代表理事と、北九州市の橋本嘉一副市長に、それぞれの国際化施策と多文化共生に係る現状と課題について基調講演を行っていただきました。第二部では、両国の課題となっている「外国人との地域生活の共同」と「外国人の子どもの教育」について、二つの分科会に分けて、パネルディスカッションを行いました。

*分科会1「外国人との地域生活の共同について」

コーディネーター	梁起豪	聖公會大学校教授
パネリスト	金昌模	京畿道安山市外国人住民センター所長
	金致元	ソウルグローバルセンター副館長
	上野葉子	川崎市市民・こども局人権・男女共同参画室長
	加藤博恵	群馬県大泉町広報国際課主幹

*分科会2「外国人の子どもの教育について」

コーディネーター	山脇啓造	明治大学国際日本学部教授
パネリスト	申淑子	仁川広域市江華郡多文化家族支援センター長
	金吉安	大邱広域市達西区多文化家族支援センター事業総括チーム長
	甲村洋子	愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室長
	鈴木英文	三重県鈴鹿市教育委員会人権教育課長

2. フォーラムでの注目すべき議論

フォーラムでの注目すべき議論を、若干紹介します。

なぜ多文化共生政策を推進するか、その戦略的理由について。

グローバル化が進展し、都市間の競争が激しくなっています。労働力の多くを外国人に頼る工場もあり、その安定した受け入れ態勢の確保、すなわち「多文化共生」は、都市の発展に不可欠な「都市力」の一つです。

また、結婚移民者の受け入れは、**少子化社会**への対応策でもあります。

文化・風習が異なる外国人と生活していく上で、トラブルは決して少なくありません。外国人を住民として捉え、地域社会への参加を進めることが肝要です。

韓国の工業都市であり、外国人住民が高い比率を占める「**国境のない街**」を抱える安山市では、多文化理解講座や祭り、スポーツ大会を開催して、同じ住民である外国人の参加を当たり前のこととしています。



川崎市では、「**川崎市外国人市民代表者会議**」を設置し、外国人市民に、自らの問題を調査審議する機会を保障しています。近年、在日韓国・朝鮮人に加えて、中国、インド等の出身者が増えています。この会議にも、様々な地域からの外国人が属しています。

ブラジル人の住民が多い群馬県大泉町では、外国人に地域のことを理解してもらうための**多文化共生懇談会**や日本の文化・習慣を母語で伝えてもらう「文化の通訳」登録制度を実施しています。

外国人の母親から生まれた子供の言語教育が問題です。家庭では、母親から母(国)語を学びます。しかし、母親が現地語に通じていない場合、子供の現地語取得が困難です。そこで、両国では、子供のアイデンティティを確立しつつ、社会への適応を図るため、母(国)語と現地語の二重言語教育**を如何に進めるかが課題になっています。**

達西区(韓国大邱市)や江華郡(韓国仁川市)では、通常の学習指導の他にも、多文化家庭への**個別訪問指導**等を行っています。特に、江華郡では、韓国人家庭と多文化家庭の間で**姉妹提携**によって問題を解決する活動を奨励しています。

愛知県では、公教育における加配教員や語学相談員の取り組みに加えて、**プレスクール事業**として、小学校入学直前の外国人の子どもが学校生活にスムーズに適応できるような指導や、学校の放課後等の日本語学習を支援する基金事業を行っています。

鈴鹿市では、小学校に外国人臨時職員を派遣しての**外国人児童生徒サポート**や、日本生まれで母国を知らない児童に対する母国語取得や母国理解のための支援教室などの取り組みを進めています。

他面、両国ともに単一民族意識が根強く、排他意識があり、多文化家庭に対する理解と配慮へのハードルとなっています。

韓国側からは、地域住民への広報、教育を通じ、変化を促すとともに、教える側である教師にも認識改善を促していきたいとの意見がありました。

日本側からは、子ども同士が教室で会うことで変化していくように、大人にも外国人との出会いの場を作っていく必要があるとの意見がありました。そして、これらの施策の推進にあたっては、外国人児童生徒への教育保障、受入れ社会の多文化理解の推進とともに、“人権”の課題として受け止め、行政による指針等の位置づけが必要との指摘もありました。

3. フォーラムの成果

今回のフォーラムを通じ、「労働力としての外国人の受入」と「結婚による移民者の受入」という2つの流れがある中で、単一民族志向を乗り越え、多文化共生社会の実現と外国人の子どもに対する教育の充実が、両国の共通課題であることが分かりました。

関心をお持ちの自治体の皆様からご意見をいただければと思います。

そして、今後両国間の**政策議論**を深めて行きたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。



初めての日本版に当たって

韓国と、経済的な結びつきが強い自治体は多いです。韓国直行の航空便が就航する都道府県は、25に上ります。また、船便もあります。クレア・ソウル事務所では、このような結びつきを深化させるため、「観光」、「特産物の販売」の事業を進めます。

「多文化共生」などは、日韓の自治体間で有益な議論ができます。「海図のない航海」も、共に歩めば、助けになります。また、自治体国際化の戦力として、「CIR(国際交流員)」を大事にしたいと思います。

このような事業の基礎は、日本の自治体との協力・協働関係です。そのためには、**情報共有**が不可欠の前提です。これまで韓国自治体向け広報誌はありましたが、日本版を初めてつくりました。日本の自治体の方に、韓国の実情や進行中の事業の内容を知っていただきたかったからです。

クレア・ソウル事務所には、韓国と関係が深い自治体から来た12人の職員がいます。1人1人が、日韓間の**インターフェイス**(つなぎ役)になりたいと願っています。勿論、韓国人スタッフもお手伝いします。

皆様からのご連絡をお待ちしています。

クレア・ソウル事務所長 谷 史郎

わたしたちがお手伝いします！～職員紹介～

クレアソウルでは、ご紹介した取り組み以外にも、みなさまが韓国に訪問される際の活動を、①訪問先へのアポイント取付け、②資料の提供、③現地事情説明、④職員の同行など様々の面から支援しますので、ぜひご活用ください。

・職員一覧

所長	谷 史郎
次長	高橋 淳 (札幌市)
調査役	岩下 久展 (鳥取県)
所長補佐	山元 真弓 (富山県)
〃	八木 寿史 (京都府)
〃	朝長 浩志 (長崎県)
〃	岩佐 晃 (宮崎市)
〃	青野 寛子 (松山市)
〃	福増 伸一 (愛媛県)
〃	岡元 隆太郎 (鹿児島県)
〃	千葉 雄一郎 (仙台市)
〃	今城 則昭 (岡山県)
〃	木原 久美 (鳥取県)
調査チーム長	巖 泰浩
〃	朴 永蘭
主任調査員	金 志修
調査員	朴 恩瑩

※()内は、派遣元自治体名

・活動支援担当者

自治体(各都道府県内の自治体を担当)	担当者
北海道、青森県、秋田県、岩手県	千葉
宮城県、山形県、福島県	
茨城県	福増
栃木県、群馬県	朝長
埼玉県	八木
東京都	岩佐
神奈川県	木原
千葉県	岡元
新潟県、富山県、岐阜県、石川県、福井県	山元
長野県、山梨県、静岡県、愛知県	青野
三重県、滋賀県、京都府、奈良県	八木
大阪府、和歌山県、兵庫県、岡山県	今城
鳥取県、島根県、広島県、山口県	木原
徳島県、香川県、愛媛県(松山市を除く)、高知県	福増
愛媛県松山市	青野
佐賀県、長崎県	朝長
福岡県、大分県、宮崎県	岩佐
熊本県、鹿児島県、沖縄県	岡元

- ・観光事業担当者：岩佐(チーム長)、青野、今城
- ・物販事業担当者：朝長(チーム長)、福増、岡元